

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	
期末配当金	毎年12月31日
中間配当金	毎年6月30日
	その他必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 (連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行いますが、事故その他やむを得ない事由によりできない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載URL) https://www.tok.co.jp/company/public_notice.html
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4186

ご注意

- 住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますとお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
	証券会社等の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式
<ul style="list-style-type: none"> ■単元未満株式の買取・買増請求 ■住所・氏名等のご変更 ■配当金の受領方法の指定（注） ■マイナンバーに関するお届け・ご照会 	口座を開設されている証券会社等	左記の特別口座の口座管理機関
<ul style="list-style-type: none"> ■特別口座から一般口座への振替請求 		
<ul style="list-style-type: none"> ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	左記の株主名簿管理人	

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」はご選択いただけません。



IRメール配信を行っています。ぜひご登録ください。

<https://rims.tr.mufig.jp/?sn=4186> ▶▶▶

「プライム市場」への移行

当社は、2022年4月に東京証券取引所の「プライム市場」へ移行いたします。「プライム市場」で求められる高いガバナンス水準に対応すべく、当社グループは「豊かな未来、社会の期待に化学で応える“The e-Material Global Company®”」という経営ビジョンのもと、これからもコーポレート・ガバナンスの充実に取り組み、持続的成長と企業価値の向上に努めてまいります。

企業広告を刷新

「tok中期計画2024」の始動にともない、2022年より企業広告を刷新し、表紙にも採用しました。より豊かな未来を創造する当社グループの技術と挑戦をデザイン化しています。新聞・雑誌広告をはじめ、空港・鉄道駅などでご覧いただけます。

tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子150番地
電話 044-435-3000 (代表)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

第92期 報告書

2021年1月1日～2021年12月31日

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company®”
tok 東京応化工業株式会社

0.000000001mから、
世界は深化する。





技術の研鑽と企業価値の向上を続け、 社会の期待に化学で応える。 2030年に向けて“Boost up TOK!!”

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社グループの第92期の業績および今後の取組みにつきましてご報告申し上げます。

代表取締役 取締役社長 **種市順昭**

Q1 第92期における市場環境および業績について教えてください。

当期のエレクトロニクス市場は、5G*1やIoT*2等の普及に加え、テレワークの浸透やクラウドサービス利用の拡大等により、パソコンやデータサーバー向けの半導体需要が好調に推移しました。

このような情勢下において当社グループは、「tok中期計画2021」に掲げた全社目標「TOKグループがやるべきニッチな市場を開拓する」を達成すべく、マーケティングを強化し、顧客の新たな価値創造に結びつける取組みとして、中国で販売子会社の設立や営業部門の組織再編をしました。また、次世代半導体材料開発を促進するため産官学連携を強化したほか、製品の品質や生産技術の向上を加速させる体制の構築を図りました。さらに、経営資源のより有効な活用を目的としたバランスシートマネジメントの推進など、経営基

盤の強化に向けた諸施策を着実に実施した一方で、感染症拡大防止に向けた措置を講じながら事業活動の継続にも取り組んでまいりました。

この結果、当期の売上高は1,400億円となりました。

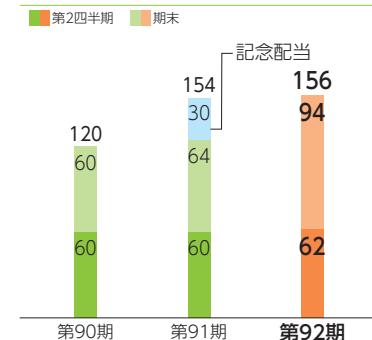
材料事業は、旺盛な半導体需要に支えられ、エレクトロニクス機能材料、高純度化学薬品の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。装置事業は、部品調達遅延や渡航制限を受けた装置立ち上げの長期化により、売上が減少しました。利益面では、原材料価格の高騰による影響があったものの、営業活動の成果や高付加価値製品の売上増加により営業利益は207億円となり、売上、利益ともに2期連続で過去最高を更新しました。

※1 第5世代移動通信システム ※2 モノのインターネット

売上高／営業利益 (単位:億円)



配当金の推移 (単位:円)



業績予想(通期) (単位:億円)

	第93期 (予想)	増減率
売上高	1,621	15.7%増
営業利益	246	18.8%増
経常利益	251	15.9%増
親会社株主に帰属する当期純利益	167	5.9%減

Q2 配当金については、いかがですか？

当期末の配当分より、株主の皆様への安定的かつ継続的な利益還元のため、DOE(連結純資産配当率)3.5%から4.0%を目標とする配当方針に変更いたしました。この方針に基づき、当期末の普通配当につきましては、当初予想から32円増配し94円としました。このことにより年間配当金は、第2四半期末配当金62円と合わせ1株につき156円としました。

Q3 第93期の見通しについて教えてください。

当社グループでは、今期より新たな経営指針となる「tok中期計画2024」が始動しました(3ページでご報告します)。これは、「TOK Vision 2030」から未来起点で設定し、

2030年に向け“Boost up”していくため、具体的に実践する最初の中期計画であり、達成すべき戦略的な通過点となります。

「tok中期計画2024」の初年度については、エレクトロニクス市場の高い稼働率が今期も継続すると考えております。これを背景に、売上高は1,621億円を予想しており3期連続で過去最高の売上高を更新する見通しです。また、営業利益についても、引き続き原材料価格の高騰の影響を受けるものの、営業活動の成果と、各種フォトレジストを中心とした高付加価値製品の売上増加から増益基調は続く見込みであることから246億円を予想しており、3期連続の過去最高益を見込んでおります。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社のウェブサイトでも2021年12月期決算説明会の模様をご覧ください。

[当社ウェブサイト](#) ▶ [IR情報](#) ▶ [決算説明会ビデオ](#) <https://www.tok.co.jp/ir/movie>

tok 中期計画2024

新たに「tok中期計画2024」(2022年度～2024年度)を策定いたしましたのでお知らせいたします。

当社グループは、「自由闊達」、「技術のたゆまざる研鑽」、「製品の高度化」、「社会への貢献」という経営理念のもと、長期ビジョン「TOK Vision2030」で設定した経営ビジョン『豊かな未来、社会の期待に化学で応える

“The e-Material Global Company®”の達成に向けて、本中期計画を5つの全社戦略を中心に推進し、事業活動を通じて社会への貢献と企業価値の向上に取り組んでまいります。

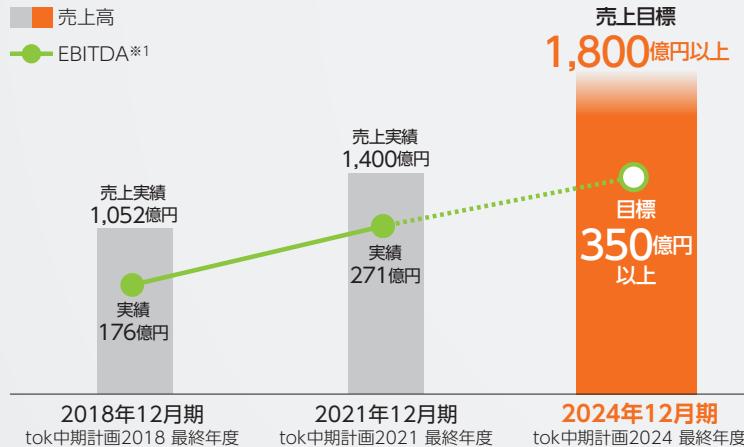
「tok中期計画2024」の概要

2030年に向けて “Boost up TOK!!”

全社戦略

- 1 先端レジストのグローバルシェアを向上させる
- 2 電子材料および新規分野でのコア技術を獲得・創出する
- 3 高品質製品の安定供給とグループに最適な生産体制を検討・構築する
- 4 従業員エンゲージメントを向上させ人を活かす経営を推進する
- 5 健全で効率的な経営基盤を整備する

最終2024年度における業績目標



ROE ^{※2} 8.0%以上を維持

※1 EBITDA=営業利益+減価償却費
 ※2 ROE(自己資本利益率)

2030年に向けた基盤づくり

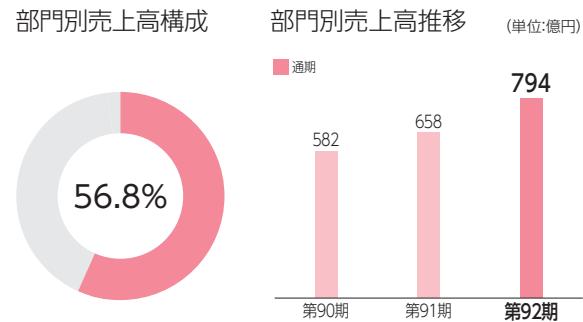
当社グループは、今後も高い水準で推移することが見込まれる半導体生産のグローバルサプライチェーンのコアとなる国内拠点の強化のため、3年間で約450億円という過去最大規模の設備投資を計画しています。

これは、半導体製造用材料の生産能力の増強や品質管理のさらなる強化、国内工場のスマート化などのための投資です。さらに生産基盤の一層の強化を図るために、熊本県に新たに工場用地を取得いたしました。



材料事業

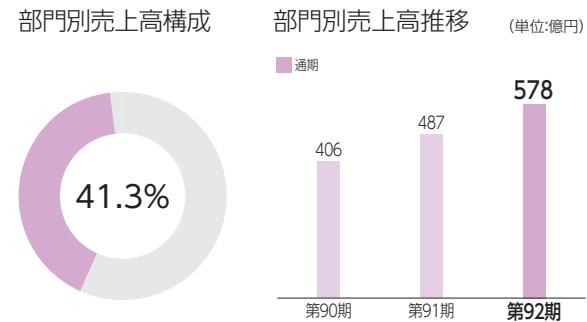
エレクトロニクス 機能材料



部門別売上高 **794**億円

エレクトロニクス機能材料部門の売上高は、前年を大幅に上回る794億91百万円(前年度比20.7%増)となりました。これは、5G、IoT関連やデータサーバー向けなどの旺盛な半導体需要に支えられ、半導体用フォトリソトや高密度実装材料の売上が増加したことが主な要因です。

高純度化学薬品

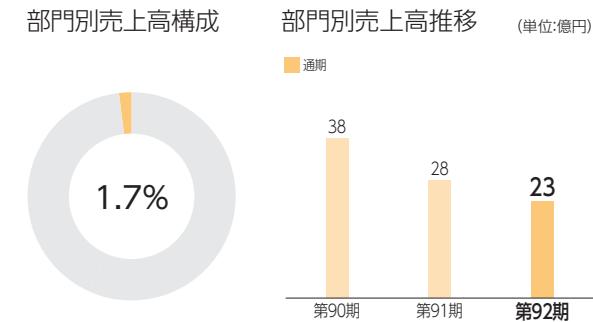


部門別売上高 **578**億円

高純度化学薬品部門の売上高は、前年を大幅に上回る578億4百万円(同18.6%増)となりました。これは、最先端半導体製造プロセスに使用される半導体用フォトリソト付属薬品の販売が好調に推移したことが主な要因です。

装置事業

プロセス機器



部門別売上高 **23**億円

プロセス機器部門の売上高は、前年を下回る23億29百万円(同17.1%減)となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による部品調達の遅延や渡航制限を受けた装置立ち上げの長期化が主な要因です。

製品紹介

厚膜KrFフォトリソト

KrFフォトリソトの世界トップメーカーである、当社グループが提供する厚膜KrFフォトリソトは、3次元の構造を持つ3D-NANDフラッシュメモリの製造に欠かせない材料です。3D-NANDフラッシュメモリは、データ保存領域を従来の平面上から垂直方向に積み重ねる(積層)ことで大容量化を達成しております。この積層構造を加工するのに厚膜KrFフォトリソトが使われています。

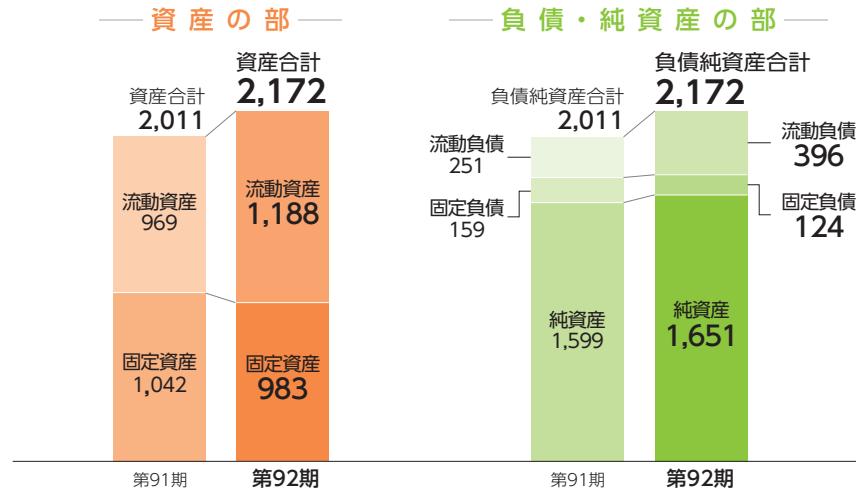
3D-NANDフラッシュメモリは、スマートフォンの動画・写真や音楽などの保存のほかに、大量のデータ保存が必要なデータセンターやクラウドサービス向けにも用途が広がっています。当社グループは厚膜KrFフォトリソトの提供を通して、社会の期待に化学で応え、豊かな未来の実現に貢献していきます。



3D-NANDフラッシュメモリ

連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



資産の部

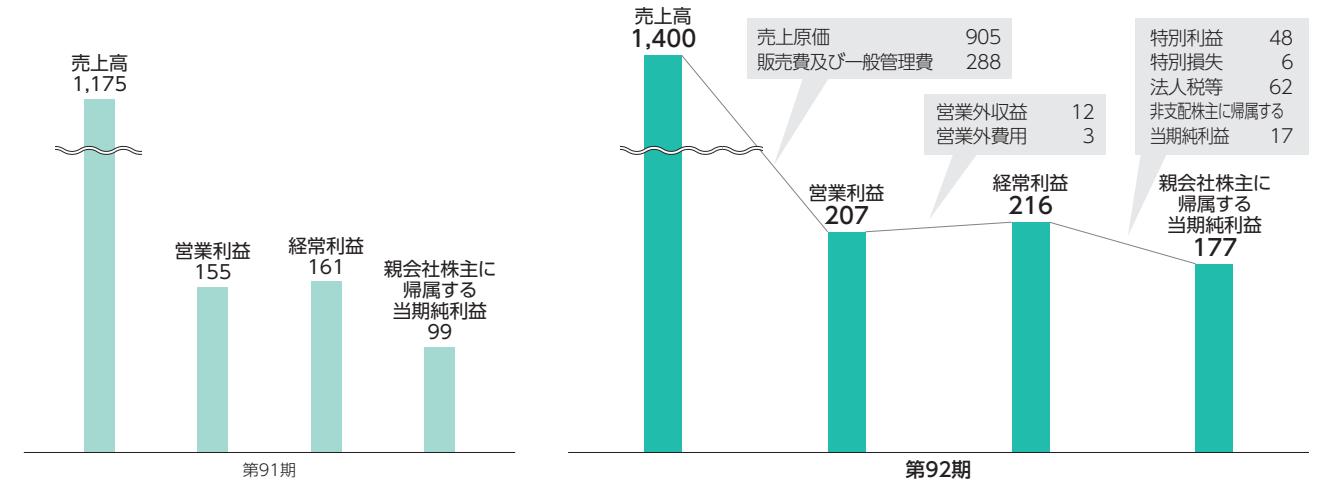
- ・現金及び預金と受取手形及び売掛金が増加したことにより、流動資産が増加。
- ・長期預金の短期振替で投資その他の資産が減少したことにより、固定資産が減少。

負債・純資産の部

- ・支払手形及び買掛金、長期借入金の短期振替で短期借入金が増加したことにより、流動負債が増加。
- ・為替換算調整勘定が増加したことにより、純資産が増加。

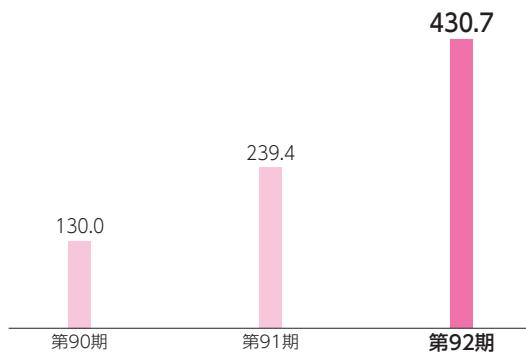
連結損益計算書の概要

(単位:億円)



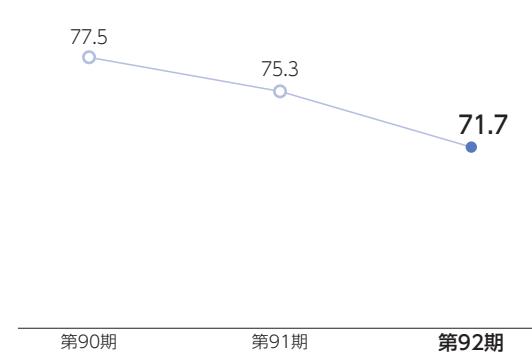
1株当たり当期純利益

(単位:円)



自己資本比率

(単位:%)



連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)

